愛國婦人

●定價一部三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麴町區牛ヶ淵公園内愛國婦人會●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯人竹内貞三

明治四十四年一月十五日發行

January 15th. 1911.

創刊明治廿五年二月廿七日●明治卅五年三月廿一日第三種郵便物認可●毎月二回(一日十五日)發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番●遞送無料●振替貯金口座東京壹壹六二番

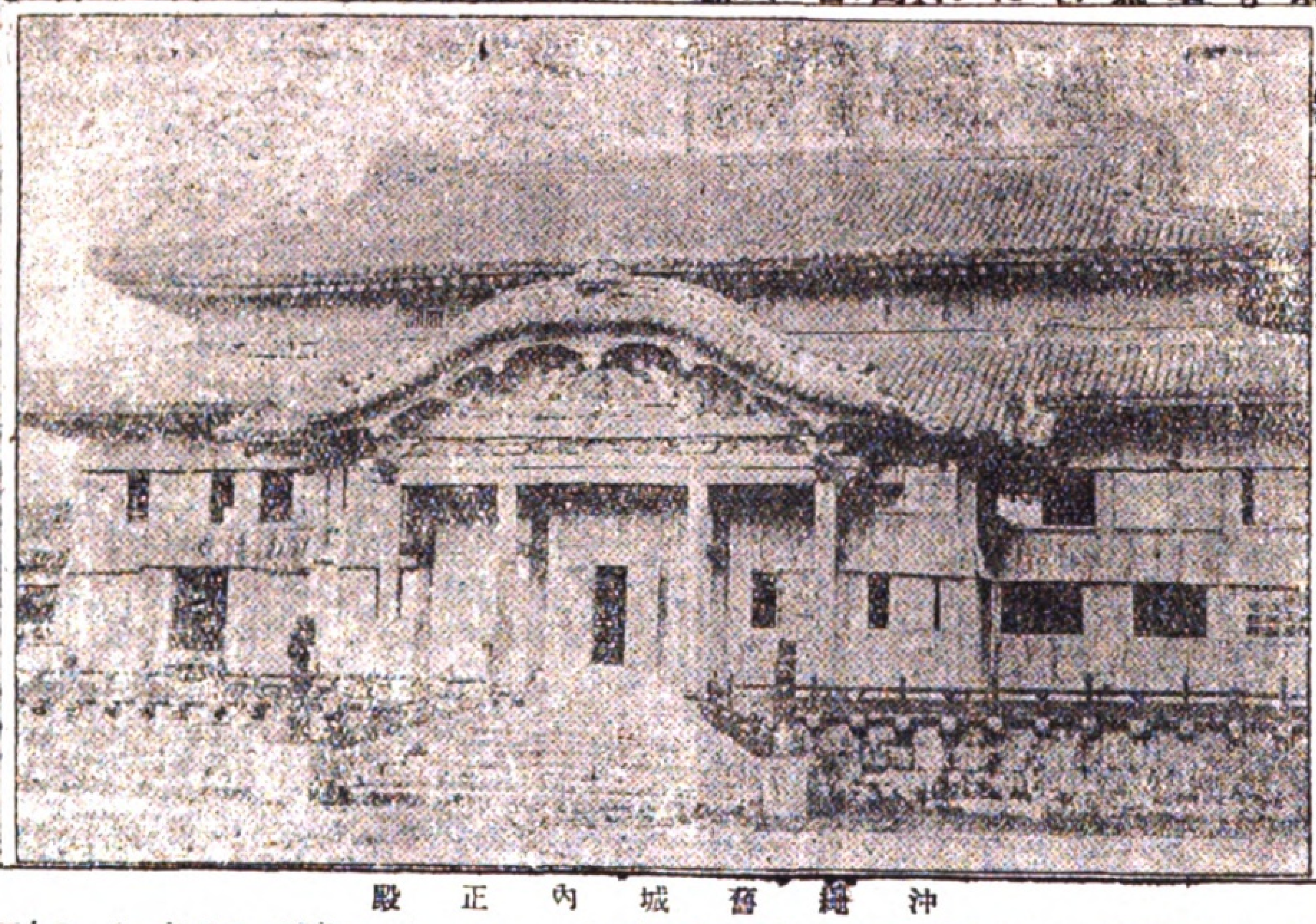
所感

愛國婦人會　總裁殿下沖繩へ御渡航に就て

皇國の爲め、博愛慈善の爲めとしあれば、些の御厭ひもあらせられず、數百里を經て、玉姿を邦土の邊陬にまで運ばせ給ふ、愛國婦人會總裁、閑院宮妃殿下には、阿部副會長を隨へさせられ、既報の如く、舊臘十二月十二日新橋御發車、横濱にて軍艦滿洲丸に御搭乘、遙に沖繩へ向け御渡海あらせられましたが、海上何の御障りもあらせられず、十五日無事那覇港へ御到着遊ばされ、十七日には會員總會へ御臨場、優渥なる御諭旨を給はり、次で有功章並に軍人遺族癈兵へ御下賜金の御親授あり、十八日には沖繩出身軍人戰死者招魂祭へ御參拜、十九日には產業上並に子弟の教育上に難有き思召を垂れ給ひまして、二十日御歸航の途につかせられ、二十三日御機嫌麗はしく御歸京遊ばされました。(沖繩支部總會の詳報は附錄に掲載す)

抑も沖繩諸島は、我國南部の海洋中に偏在する故、古來世の趨勢に遲れて居ましたが、明治　聖代の恩澤に浴してからは、人文日に開け、百事月に進んで、今日では諸般の設備が殆んど内地と異ならぬ程度に到つたとは云へ、尚ほ未だ、金枝玉葉の尊き御身を以て、同地に台臨あらせられた事はありません、今回の事は實に此地空前の盛儀で、縣下の民庶は云ふ迄もなく、山川草木の末に至るまでも、この無限光榮に感泣し、皇室に對しては倍々敬虔の念を篤ふし、國體の重んずべきを覺り、同時に慈善事業の如何に高大なるものであるかを自得したのでありませう。

是れ皆　殿下の御威德によるのでありますが、秋は霜氣頓に増し、寒威日に加はるの折から、御身はたとひ南方に向はせたりとは申せ、沖繩の地も尚既に薄寒の季に入り、殊に氣候風土を異にし況して　殿下には、畏れ多けれど、曩に本會島根支部總會御台臨の砌、少しく御渡海の御經驗あらせられたる外、未だ船路に御馴れ遊ばされざるやう漏れ承りますのに、尚且つかの地會員の奉願を容れて横濱より沖繩に至る往復六晝夜の浪荒き航海の御辛苦を、聊御厭ひもあらせられず、御台臨遊ばされました。今更ら感佩し奉るも愚でありまするが、　殿下が本會の事業に御心を勞させ給ふことの深き、實に此の如くであります。されば、本會職員は勿論、其他男子にして苟も會務に關係を有するものは、何で凝として居る事が出來ませう。自ら省み、自ら勵み本會創立以來の經驗に鑑み會運の發展尚ほ生計難なる戰病死者軍人遺族及癈兵の救濟等に就き將來に相適する方法を講究して、區々たる情弊を排し眞面目に之れが實行に努力しなくてはなりますまい。



沖繩舊城內正殿

殊に、平和は現今世界の趨勢でありまして、歐米各國皆之れを唱道しては居りますが、其の平和は所謂武裝的平和で表面には平和を叫び、裏面では競つて軍備を充實し、頻りに海陸軍を擴張して居ります。試に昨年末に於ける列國海軍の狀勢に就て觀察すれば、勢力の最も優秀なる軍艦丈でも、英國は二百十二萬噸、米國は八十一萬噸、獨逸は八十四萬噸、佛國は六十八萬噸、露國は三十五萬噸、伊國は三十四萬噸を有して居りますが、尚今後一兩年間に英國は獨逸國で起工される裝甲艦の二倍と五隻の小巡洋艦及び若干の驅逐艦、水雷艇等を建造し。米國は年々二隻の大艦と若干の驅逐艦及潛水艇の獨逸は去る四十三年から來る五十年に渉り戰艦十二隻、大巡洋艦八隻、小巡洋艦十六隻を竣工する計畫を定め着々實行して居るやうです。又佛國では既に起工せる二隻の戰艦の外明年より來る五十年までに年々二隻宛の大戰艦建造を計畫し露國では今回五億五千留を投じ、新に戰艦十二隻裝甲巡洋艦八隻、二等巡洋艦、驅逐艦、潛航艇若干を建造する事を議決すると云ふ有樣で、世界の海軍は未曾有の全盛を極めて居る。同時に軍艦並に武器の内容も日に〱進步發達し、三萬噸以上の大艦が建造され、十四吋砲が搭載され、速力も大艦では二十六節、小艦では三十七節以上を出すやうにと、熱心に研究されつゝあります。

かく、歐米各國悉く爭つて夥大の費用を國防の爲めに投じ、軍備を擴張して居りますので、隨つて我國に於ても亦之れに對する準備がなくてはなりますまい。是れ實に吾々日本國民が瞬時も注意を怠つてはならぬことで、別けても本會の如きは、所謂治に居て亂を忘れずで、平時に於て十分にその基礎を固くし、一度有時の日に遭遇しては、大に活躍して會の天職を發揮し、使命を全ふするやう準備する處が無くてはなりますまい。

回顧すれば、本會の成立は、去る明治三十四年三月二日のことでありまして、本年は實に創立後滿十週年に相當します、十年と云へば長い月日のやうにも思はれますが、之を國家と運命を同じふすべき本會の性質上から觀ますれば、實に唯生存の一分時を過し、今は漸く獨立獨步の域に進まんとして居るのみで、隨つて、至大至重なる天職を全ふし、使命を盡すは實に今後にありますから、苟も本會に關係を有する男女は益々將來に向つて邁進奮勵し、皇國の爲め、博愛慈善の爲めに、本會をして確固不拔、永遠不滅のものたらしめ、以て　總裁宮殿下の難有き御思召に悖らざるやう熱誠努力せられんことを希望して止まぬ次第であります。

本號主要目次

▼愛國婦人會總裁殿下沖繩へ御渡航に就て……
▼日本婦人の活動を促す(六)……
▼私はこんな心得て本年を迎へました……東京高等女學校長　棚橋絢子
▼斯く子弟を教養すべし(下)……男爵　高木兼寛
▼日英博覽會婦人部の狀況(上)……秋元春朝
▼大眞面目……女子商業學校監　嘉悦孝子
▼伯林の正月……醫學士　山崎正薫
▼飛行機の話(上)……日野砲兵大尉
▼小說風馬牛(六)……千葉圓蝸
▼逸話房の山川(二ノ上)……松平淑子
▼講談宇都宮孝子傳(一)……大島伯鶴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人

日本婦人の活動を促す（六）

内外婦人の比較と國債

人口が少なくて交際の頻繁くない時代は、人々の需要品にも不足がない、萬事の生活が簡易かつたけれども、人口は増殖る、交際は頻繁くなる、加之に交通の機關は出來る、虚榮心が増長すると、需要も不足で生活が困難になるから、今年よりも明年、明年よりは明後年と、年々甚くなるばかり、一家の經營も斯の樣ですが、一國の政治も其の通り故、下手な主婦では、家政を巧く整へる事が出來ぬやうに、無能な政府は經濟が拙い、遂には國債といふ政府の借金が生る、其れも内債だけならば、何とか遣繰算段も附かうが、外債となれば、高い利子の上に、手數料まで多く取られて、約束の期限には一日も只では濟まぬ、又近年は表面だけ文明とかいふ時勢になつて、外國の交際は夥しい費用が要る、日本も清國や露國と戰爭をしたので、外債が意外に殖えて、内外を合はせば二十億から上になつて居るから、一人前の與分にすると、四五十圓づゝの借金であります、一人前というても、大人ばかりとか、男ばかりとかではなく、老爺連でも乳兒でも同じ事で、呱々ッと生れると、其の日から借金を脊負はねばならぬ、若し一家内五六人あるとすれば、二百四五十圓から三百圓位づゝの借金がある譯で、之を強壯な大人ばかりとすれば、一人前百圓程づゝになる、何にしても、世智辛い世の中に、重い荷物を負うて居る譯であります、其れ故、國民は上下貴賤の別なく、殊に女子は貧富の隔なく、副業をして家を富ましたならば、國も自然に富んで、早く外債を償還すやうになる、人は何程賢くても貴くても、借金があつては頭が上らぬ日本も今は大陸の列强に伍入して、吾人は大國民とかいふ者になつたのであるがさて〳〵貧乏な大國民で、金の大黑ならば、七福神の中でも威張れるが、貧の大國では幅が利きませぬ。

今東西の婦人界を見渡すに、獨逸の婦人ほど活動するのはあるまい、如何な貴族でも富豪でも副業を名譽として、公然に手工品や製造品を賣つて貯蓄し、若しも之を嗤ふ虚榮者があれば、却つて嗤ふ者を嗤つて居る、而して一家の經理から子女の敎育、社會の交際まで皆引受けて而も米國のやうに、男子を尻にしたり、甘つたれたりはせぬ、是れは、確に我國婦人の美德の上に加ふべき、一つの長所でありませう。

愛國婦人會事務總長貴族院議員馬屋原二郎氏

又佛蘭西の婦人でも、夫の普佛大戰爭に甚く敗けた時、普魯西からは二度と腰足の起たぬほど償金を課けられたけれども、佛蘭西の婦人たちは、率先して製造工業から、手藝雜商まで營んで、僅かの間に辨償さして了ひました、況して忠君愛國の志氣に富んで居る我が國の婦人ですから、猶更のこと一奮發して、第一には此國を富まし、第二には子孫に此の美風を遺し、第三には世界中に日本婦人の氣質を倣はす樣にしたいものである、別して、不生産な朝鮮人が新に我が國民となつたのであるから、其の婦人たちをも誘掖して、よい美風に同化させねばなりませぬ。

元來朝鮮は男の懶惰ける風俗で、女は比較的よく活くが、其の活くのは消極的で、家族の洗濯を主なる任務にして、其の外は一室に閉ぢ籠つたきり、積極事業はせぬ、然るに男子が文弱であるから、女の淫柔力は却々强くて、頑固な氣質が多い、併しながら、天禀は開發性に富んで居るから、之を正しい方向に誘化たならば、意外な賢妻良母の同胞を得られませう。

其の誘掖同化の方法は、先づ名分を正しうする事で、第一、君に對し奉ることから、父母兄弟姉妹夫婦子孫の別を明にすることまで、我が邦の良風美俗を傳へ第二は、夫の婦人には名字さへも無い位であるから、戸籍は勿論完備つて居らず文字をも知らぬ程であるから、子女の敎育を知らう筈もない故、是れから上下尊卑の名分、戸籍の種別、學齡の敎育、などを大切に守らせ、第三は敎育に關する勅語の聖旨は勿論、婦德、婦功、婦言、婦容、婦貴の五つをも實行する樣にさせねばなりませぬ、殊に敎育は政府の任務でもあるが、國民も力を戮さねばならず又我が婦人が夫の婦人を先づ敎化して、一般敎育行爲を速くし有功にする事は、今日の緊要な助成であるから、幸に我が本十の婦人に此の標本が多くて、朝鮮婦人に對し、間接ながらも師となつて呉れるならば、實に自他の幸福であるが、若しも反對に不良模範になられて、之が爲に朝鮮同化の妨害ともなるならば、折角其の爲めに費した國債は、全く何の甲斐も無い事になります。（つゞく）

私はこんな心得で今年を迎へました

東京高等女學校長　棚橋絢子

人は萬般に用意といふことが緊要です日常此の心懸を怠り、いざ事が起つたといふ間際になつて、俗に足元から鳥が立つといふやうに、慌て騷ぐのは、誠に見苦しくも淺間しい次第であります。

私は毎日餘暇さへ見出せば、少しの時間でも決して徒に費やさず、或は衣服の縫ひ直しを爲るとか、此處彼處の掃除をするとか致し、且つ、冬の衣服類は夏の日永に、夏の衣服は冬の内に仕末をして置くといふやうにして居りますから、歳が暮れに迫つたからといつて、別段何を爲ねばならぬ、彼も急かねばならぬといふやうなことはなく、又歳が改まつたからといつて、今年はこんな覺悟を爲ねばならぬなどいふことも有りません。新年早々不吉な詞ですが、私が若し不幸にも歳の代らぬ内に死んで了つたならば、チヤンと準備を致して置いた翌年の用意萬般が無駄になり、畢竟私が骨折損をするばかり、又幸に生きて居たならば其の歳だけ儲けたといふものですが、本年も新春を迎へることが出來ましたので、先づ先づ今日のところ骨折損も無かつたといふもので御座ります。今年も亦誠心誠意、露程の我慾も起さず、相變らず眞面目に立ち働きませう。

私は本年で七十三歳になりますが、元來人は壽命ばかり永いからといつて、其人が偉い理のものではなく、無暗に命數のみ加へても、其の間に爲した仕事の量が尠ければ、長命も無益で、眞に永く生きたとは申されません。私は亡親や亡夫の敎訓の御陰で、今日迄餘り誤つたこともなく、又隨分澤山の仕事を致して居りますから、命數に於て少しも未練はありません。唯此の世に生存して居る以上は生き甲斐のある月日を送り、身體の續く限り立働いて、少しでも多く世の利益になる仕事を致したいと思つて居ります。

要するに、人が世の中を安樂に暮すも地獄の苦みを受くるも、氣の持ちやう一つです。我慾を起さず、誠意誠心で事に當り、時間を徒に費消さぬやう致して參つたならば、世は安樂に暮して行かれる筈でありますのに、飛んだ虚榮心あればこそ、慾氣も出ます。慾氣があればこそ世の中が大變苦勞になつて、樂しく眞面目にも働けず、思はぬ困難に遭遇ふ事ともなります。戒むべきは虚榮、心懸くべきは周到なる用意を怠らぬことであります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如何に子弟を教育すべき（下）

男爵 高木兼寛

兎に角兒童を養成するには、幼少の時より同一の事を繰り返し敎へて遂に其敎が兒童の心に合體し、離散れることの出來ない位にならねば、效果があるものでない、澤山のことを敎へ込んでも、その敎が兒童の頭腦から直に離散するやうでは何の效果も無のであります。

▲自分は斯く敎へられた　私の幼少の折りに此の方針で敎へられ、先づ朝起きて嗽洗でから、第一に氏神次に祖先の靈の前に拜禮を爲、夜床に臥す時には其趣を兩親に告げ、床の前及祖先の位牌の前に拜を爲ると云ふ事を嚴しく行はせられました、が之れが自然性と爲り、今日尚斯く爲ねば心地が惡い、かく惡い心地のするのは親からはんぷく敎へられて、強く頭腦に印した理であります。

又顧ると、私の母親は多く物を敎へず、親が無學であるから子も無學だ、と云はれてはならぬ、書籍や筆紙墨は如何やうにも都合するから、勉強するやうにと頻りに勵まして呉れました。加之、人は總て物を取る時には己の權利：：其當時には權利と云ふ詞は未だなかつたのですが：：は少しも讓らず、厘毛でも納め之を消費する時には綺麗に使へ、一言以て盡せは、汚く取つて綺麗に使へ、男は別して此の心懸けが必要であると繰り返し繰り返して敎へて呉れました。此の敎は私にとつては實に難有い敎で、私は今日迄決して此敎を忘れず、金科玉條として遵奉して居りますが、母親の敎の通りに行動爲た場合が、最も成績が宜しいやうに思ひます。私の母親は目に一丁文字のない無學のものではありましたが、兒童を敎へる人としては、萬卷の書を讀んだ人よりも優つて居たと思ひます。

又私の父は、正直に二字を守れと申して、總て世の中で遭遇した事柄に就ては必らず正直に處斷爲なければならぬと繰り返し敎へて呉れました。私は此敎に反して甚い折鑑を被むつたこともありました。又耻を知らねばならぬ、自分の名を重んじ、親先祖の名を重んじ、自分も耻をかゝず、親や祖先にも耻をかゝせぬやうと敎へて呉れました。

要するに、母親が多くの科目を日々兒童に敎ふる如きは、大きな間違でありまして、以上述べたやうに、同一のことを繰り返し〳〵敎へ込む、すると、其敎が基礎となり、忠とも孝ともなります。基礎が堅固でありさへすれば、如何な立派な建築物でも造られる道理ではありませんか。

▲兒童に好不好を言はするな　又母親が兒童に食物を供給る折に、或は食物の好嫌を尋ねたり、或は親自から何品は兒童が不好からなど遠慮して、苟も親が此の食物が適當だと思つたならば、親の專斷で定めて了つて、調理した上は必らず其品物を兒童に喰べさせる、決して好不好を言はせぬと云ふ事が必要であります。從つて食物には適當なる分量と適當なる品とを選ばねばなりません。之に反して、兒童が嫌がるからとて喰はせずに置けば、成長の後他人にも迷惑を懸け自己も往々不幸な境遇に會はねばならぬ事となります。

私は斯く敎へられたので、今日でも決して好不好は言はず、人間の喰べるものならば何品でも喰べぬと云ふ物はありません。

▲人を害し世を害する不肖の兒

又始めに述べたやうに神や佛に詣づることは、時間を費し、多少の金を費すから無益の如くに考へる人もあるが、之は一を知つて二を知らぬ誤解であつて、抑も人の精神に一定の觀念を與へるは、非常に緊要なることであるが、よし多少の時と金とを費しても、かくすれば兒童は喜んで神佛に詣で、同時に其の感化を受けて、精神の歸一を得、終世の大なる利益となるものであります。又一歩進んで、神や佛に詣づる折には、衣服も綺麗なのを着けるが、これ又然りで、かくすればこそ兒童の頭腦に趣味の念が起り深く印象されることゝなる。兎に角、現今、世の人が神佛に對して極めて冷淡であるが、其の結果は大に恐る可きものがある、即ち親にして自身の兒でありながら自分親ら思ひのまゝに敎育することが出來ず、自身の手を離れて、可愛いゝ兒童を公衆の厄介者になさねばならぬと云ふやうな悲慘なる事實が、往々新聞紙上などに現はれて居ますが、之れは實に社會の厄介者であります。かの虎、狼の如き猛獸が都府の地に襲來して人を害するなどは、絕無でありますが、今日隨分と惡少年などの人を害し社會を害し、其の害する事猛獸よりも甚だしいものが有ります。かゝるは、幼少の時に母親が敎育の方針を誤り、人たるものは斯くあらざるべからずと繰返し敎へざる結果であると斷定して可なりと思ひます。

英國主婦の來客接待振り

久田愛子

英國では、先づ親族とか朋友とかで、滯留のお客樣がありました折には、中流以上の家庭でありますと、直にお客樣の爲めに一室を與へまして、お客樣の隨意に任せますが、其の室にはお客樣の必要な品物は皆備へてありますので、お客樣は、例之外からお歸りなつた場合でも、直にリンを鳴らして下婢を呼ぶ必要もないやうに致してあります。極心易いお客樣には外の鍵まで御自由に任せてあります。

それから食事の折には、相圖の鐘を鳴らしますと、家庭のものも、お客樣も皆同じ室に集まりまして、愉快に食事を致しますが、御馳走には別にお客樣があるからとて特別の献立ては致しません、主客皆同じ馳走を頂きます。

英國の習慣と致しまして、お客樣を取扱ふには、家庭のものと同一で、少しの不自由も窮屈な思も覺えず旅窓に居ると云ふ觀念を起させないやうに勉めますのが主婦の責任であります、如何に御馳走のみを致しましても、夫れでは御馳走にはならぬ、主婦の親切を馳走とすると云ふのが主義で御座りまして、主客心地快く打ち解けるやう勉めるので御座ります。

それで、お客樣の滯留中は、お客樣の仕事は皆主婦の務めでありまして、決して下婢等の手を煩はしません、お茶を出すに致しましても、主婦自ら致しますが令孃のある家では、令孃が母親に代つて致します。英國の習慣と致して、二十一歲から交際期に入りまして、交際社會に立入ることになりますが、其れまでは例はお客樣がありましても一緒に食事も致しませず、小兒として特別の待遇を受けて居ります。

又我國では、お客樣が見えますると、お久振りの事ではあり、丁度歌舞伎座が開演て居りますから御案内致しませうなどと、芝居などに御伴致すことがありますが、英國ではそんな事はありません、又小兒の見ます芝居は、十二月の初旬より三ケ月間クリスマスの頃にかけて興行になりますが、之れは小兒ばかりに見せる極めて無邪氣なる狂言でありまして、小兒はこの芝居の外には、活動寫眞位に伴れられて參ります、が、それも夜は參らぬことになつて居ります、極下等の社會の人達は兎も角、通常以上の人では、夜になりまして小兒を伴れて街上を散歩して居るかたなどは、決して見受けられません。

▲北白川宮妃殿下　第二回御着帶式

年新なると共に竹の園生の御榮えます〳〵繁きが中には分けて芽出度きは北白川宮には周宮妃殿下には今や御懷妊後五ケ月を經過し給ひ今月中に第二回の御着帶式を擧げさせ給ふやに漏れ承る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日英博覽會内婦人部の實況（上）

日英博覽會事務官　秋元春朝

私は日英博覽會内の婦人部受持の任務を帶び、其外種々補助に努めましたが、嘗に約五ヶ年間英國に留學した經歷もあり、歸朝早々再び渡英したと云ふやうな關係から、諸種の方面に可なり力を盡し得たことゝ信じます。

先づ日英博覽會に於ける婦人部の模樣を概略お話しすると、日本の博覽會として特別に婦人部と云ふのを設けたのは、今度が始めてゞありますが、なにしろ日本部の總面積六千幾坪の内、婦人部は四十坪位に過ぎず、從つて愛國婦人會の出品陳列所の如きも平面積にして半坪、壁が約一坪より以上使用することが出來ぬと云ふやうな仕末であるのに、日本婦人の敎育の狀態、慈善事業其他の事業の有樣、生活、娛樂、嗜好、文藝等の各方面に亙つて、陳列場所のかく小さく狹いのにも關はらず、成るべく數多く出品し、日本婦人は、今日まで英國人が思つて居たやうに、國家の爲めに何等利益ある活動もせず、又その實力もないと云ふやうな、極くツマラヌ者では無い、才能あり、活動力ある者であると云ふ事を汎く了解させたいとの希望を以て、隨分と苦心を爲たのでありますが幸にも大體に於て好成績を擧げ得たのは何より結構でした。

秋元春朝氏

開會中は、御承知の通り大變な入場者で、五月十四日から十月二十九日の閉會當日まで、休日を除いて約百五十日間の入場者總數三千五百萬人と號されて居りますが、それ程ではなくとも確に一千五百萬の入場者がありました。則ち一日平均約十萬人の割に當るのです。尤も開會當日の如きは、二十五萬人からの入場者があつて、會場内に設けた飲食店の如き十萬人内外の需要に應ずるだけの準備がありましたが、それでも不足を生じ、場内二十ヶ所の便所には、一二町も行列をして押すな〳〵の奇觀を呈しました。又八月一日のバンクホルデーには約三十萬人の入場者があり、此外月に一二回宛、皇太子殿下の御誕辰日、祝祭日、日英同盟調印日などにジャパンデーを開きましたが、此等の日には十五六萬人内外の入場者がありました。

私は可能だけ多く婦人の觀客を得たいと思ひまして丁度博覽會の開場と前後してウキメンスコングレスと云ふ婦人會がロンドンに創立されたのを幸、此の會の主なる婦人達を訪問して觀覽を勸誘し、尚又此外約二十八九種の婦人團體の會員に向つて一々案内狀を發しました。

話が餘事に涉りますが、現今ロンドンには、社交クラブ、自働車クラブ、游泳のクラブ、音樂のクラブ、政治上の關係から成立するクラブ、大學卒業生のクラブ、技藝家のクラブ、母親のクラブ、禁酒のクラブなど主なる婦人團體が約二十八九種あり、會長は皆知名の貴婦人で、中には往々皇族を奉戴くのもありますが會員數は多いので三千五六百人、少いのは七百人内外を有し、會費は不廉のが一ケ年五十圓内外、廉のが十圓か二十圓位、此外入會金が百圓乃至三十圓前後です。又其の創立を見ますと、古いのは今から約二十五年以前に成立したアレキサンドラと稱する團體があり、極新しい團體には漸く四五年前に組織されたものもあります。之等の團體並英國に於ける救濟事業の狀態に就ては、後日折を見て詳細にお話することゝ致しませう。（つゞく）

大眞面目

日本女子商業學校學監　嘉悅孝子

大眞面目と云ふことは、眞劍勝負の心掛とでも申してよろしうございませう。夏目漱石さんの小說「虞美人草」には、第一義の活動と申してあります。それには、いろ〳〵とこんがらがつた小說的關係が、副主人公宗近さんといふ、ほや〳〵の法學士の第一義の活動によつて、一刀兩斷胸もすくやうなよい手際に依つて解釋せられて居るのです。

これを禪の言葉で申せば、第一義、則ち大眞面目、又は良心其儘の活動、水にも溺れず、火にも燒けざる人間本性の赤裸々の活動、と申すことださうでござります。

則ち、人は時々大眞面目になる必要があるのです。平常大眞面目でやり通した人は、孔子、佛陀、基督の如き人でございますが、夫れ程までには成らずとも、時々は孔子や佛陀の心の如き、大眞面目になりたいものだと思ひます。

『虞美人草』の中に、

……小野さん眞面目だよ、いゝかね、人間は年に一度位眞面目にならなくちやならない場合がある、上皮ばかりで生きて居ちや、相手にする張合がない。又相手にされてもつまるまい。僕は君を相手にする積りで來たんだよ、いゝかねわかつたかい、分つたら君と對等だよ、君は學問も出來る。頭も僕より好い、僕は君を尊敬して居る、尊敬して居るから救ひに來た。

かういふあやうい時に生れつきを敲き直して置かないと、生涯不安で仕舞ふ、いくら勉强しても、いくら學者になつても取返しはつかない、此處だよ小野さん眞面目になるのは、世の中に眞面目はどんなものか一生知らずに濟んで仕舞ふ人間が幾何もある、皮丈けで生きて居る人間は、土丈で出來て居る人形とさう違はない、眞面目がなければだが、あるのに人形になるのは勿體ない、眞面目になつた後は心持がいゝものだよ、君にさういふ經驗があるかい、なければ一つなつて見給へ、今だ、こんな事は一生に二度とは來ない、此機をはずすともうだめだ、生涯眞面目の味を知らずに死んでしまう、僕が君より平氣なのは、學問のためでも、勉强の爲でも何でもない、時々眞面目になるからといふよりなれるからといつた方が適當だらう、眞面目になれるほど自信力が出來る、眞面目になれるほど腰が据る、眞面目とはね、眞劍勝負の意味だよ、遣つ付ける意味だよ、人間全體が活動する意味だよ、口が巧者に働いたり、手が小器用に働いたりするのは、いくら働いたつて眞面目ぢやない、頭の中を遺憾なく世の中に敲きつけて、初めて眞面目になつた氣持になる、安心する、實をいふと僕の妹はきのふ眞面目になつた、甲野もきのふ眞面目になつた、僕はきのふも今日も眞面目だ、人一人眞面目になると當人が助かる許ちやない、世の中が助かる……

とあります。

畢竟、平常目の前の利害名聞の爲め、心身の慾の爲め、人は第二義門以下に生活爲ます。是れとて其の慾さへ甚だしからねば、又甚だしき害はありませぬけれども重大なる場合の進退去就の決斷、或は義理人情の錯雜し進退谷まるやうな時には、第二義門の生活では解決が出來ませず、よし出來ても其の處決が誤られます。

此のやうな時に、眞の決斷を爲るには第一義門の眞面目、則ち大眞面目になつて爲ねばなりませぬ。第一義門には人情も、義理も、利慾も、名聞も、富貴も、何も有りません。其等のものを數千萬尺の眼下に見下した時が大眞面目に成つた時です。自己の本性に立ち返つた時です自己の過去未來から、父母、兄弟、師弟、朋友、故舊、事業、國家、世界と考へ及ぼして、自分の地位を自分で認め、然る後、解決すべき問題に向ひましたら、如何に六ヶ間敷問題でも、何の苦もなく解決されませう。而して其解決は永久に確固なるものでございます。

時々でも大眞面目になり得る人は、誘惑や失敗に陷りませぬ。向上發展することが出來ます。私どもが希望する所は、平常大眞面目にてやり通したいのですが凡人には中々叶ひませぬ、唯實行し易きは時々大眞面目になる事でござります。

格言にも『日に三度我身を省る』といふ詞がありますが、稍之に近いのです。けれども、唯省るばかりでは未だ足りませぬ、自己の前進すべき誤らざる路を見出したいのです。人は時折困難に出遇のが結構です。所謂盤根錯節に會し、前途に熱鐵の山、熱湯の川の横はるに會する事があります、此時大眞面目となりましたら、必らず山も川も消え去つて、千里萬里一條の大道の無限際まで貫通して、前途少しも困難なきを發見することが出來ませう。是大眞面目、即ち第一義門の効能でございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伯林の正月

醫學士　山崎正薫

一月一日、晴、例よりも早く起き出で、身體を清め衣服を更め食卓に着くと主婦は出で來て新年の祝詞を述べ、例の通り珈琲と麵麭との外に、鯉のプラーテンを持つて來た、伯林では多くは祝日の食膳に見る處のものである、昨日は鰻の丸煮を食はされ、今日は鯉の天麩羅とは少々鼻につかざるを得ぬ、若し糸作りの刺身に醇良の醬油があつたならばと思つた、ピリツとした山葵の味などは夢にも見られぬ境遇、肉食主義の余にも不圖一種の感が起つた、冷たき葡萄酒を屠蘇に代へ、四十回の元旦に未だ曾つて缺がなかつた雜煮餅は、麵麭が代理をして元旦の祝儀を終つた、やがて配達夫が數十通の端書を持つて來る、皆在歐の友人からの賀狀である、凡て伯林では新年の廻禮は一般に行はれない、親密の交際ある間柄は書葉書又は名刺の交換位に過ぎぬ大店も小店も皆店を鎖し、全市寂として至つて物靜で、人々は皆家庭にあつて團欒の樂をなすのである、外に出る人は皆燕尾服か若くはフロックコートの禮裝で脊廣や中折れ帽等は更らに見付からない十一時頃一二の友人と大使館にまかりでる、恭しく、御聖影に拜賀し、續ひて大使夫妻に新年の賀辭を述べた、大使館に行くと何となく日本に居るやうな心地がする、だん〳〵在留の日本人が集つて來る、其處にも此處にも新年お芽出度うが始まる、如才のない大使夫人の待遇に皆皆喜悅の面相が溢れて居る、やがて屠蘇が出る、矢張り例の葡萄酒かと思へば、之れは正眞正銘の味淋だ、アット許り舌鼓を打つ上戸もあれば、吸物椀の蓋を取つてまごうかたなき雜煮餅を、眞か贋かと箸の先きでつゝき廻す下戸先生も居る大使夫人のお話には、毎年本國から餅を取り寄せても、是迄は郵便の日數が長くかゝつたから皆途中で粉な〳〵に碎れて了つた、けれども近年は交通の便利になつたために、こんな上等のお雜煮を皆さんにあげる事が出來るとのこと、下戸黨の得意思ふべしである、つゞいて壽司が出る、刺身が出る、上等の日本酒が出るモうこうなれは總てが日本流である、「皆さんチトお隱し藝でもお出しなさい」と大使夫人の號令の下に、待つて居ましたと云はぬ許りの顏付で、某農學博士が得意の追分節を皮切りとして、つづいて某醫學博士の都々逸、某法學士の謠曲、某中佐の義太夫など續々有志の面々が現はるゝ流石は皆一世の秀才丈あつて隱藝も達人ばかり丸で寄席にでも往つた心地がした、國に歸ると皆屈指の大家先生で、ウイルヒヨウや乃至ワグネル、シユモラーの徒と膝を交へて學說を交換上下したやうな顏付をしてゐても、高い聲では云はれぬが、内内は下宿屋の一室で義太夫や謠曲の稽古に餘念なく、謠を習ふには伯林に限りやすなどゝいつて居る、ドンナに拙くうなつても譽める者のない代りには笑ふ者もないからケック安心とある。

　正午過ぎ大使館を辭して、スプレー河に沿つて河岸を散步し、ウンデルデンリンデン街に出ると、河は厚氷はりつめて處々に氷滑りをやつて居る、市中は黑裝したる市民と、金色燦爛たる軍人のみで今日に限つて荷車等の往來がないので呑氣に散步が出來た、下宿に今一步といふ折、突然チリンデルフート、フロックコートの一紳士が余の手を握り「ヘルドクトル、プロシット、ツーム、ノイヤール」と叫んだ、何れの紳士かと驚いて視れば之れは得意の髮摘屋の小僧君閣下!。

お正月のお勝手

●飛行機の話（上）

日野砲兵大尉

▲滑稽な間違で始めて飛行機に乘る

私は佛蘭西に參つて、巴里ではありません、片田舍の飛行學校にはいつて、飛行の稽古を始めました。さて一日も迅く飛行機に乘つて見たいと心ばかりは燥急りこそすれ、誰もがわれ勝ちに先を爭つて乘らうとしますから、その競爭が大變に激しく、如何に盡力爲ましても、却々意を果さず、やゝ失望して居りましたがこゝに偶然、滑稽なる、さりながら私等には非常に幸な好機會が到來しまして、計らずも、容易と飛行機に乘ることが出來ました。

　私等が、或場所に今日飛行の競技會があると云ふことを聞きまして、其所に參つて、今正に沖天高く翔る爲めに諸種の準備を致して居る飛行機の側に立つて居りますと、傍の人が私等に向つて、飛行機に乘りませんか、と云ひます、私等はこの未曾有の詞に驚ろかされまして、始めは自分の耳を疑ひましたが、重ねて、飛行機にお乘りなさいと勸めますので、何故に私等に飛行を勸めるのか、全然不得要領が、なにしろ、私等は少々位金を出しても、頭の二三度下げても一日も一時間も迅く飛行て見たさが山々の折からではあり、好機會! 乘らうと云ふ氣になりました。鳥打帽子を後ろに被り、ツカツカと飛行機の側に立寄りました::鳥打帽子を後ろに被つたと云ひましたが之れは彼國の飛行機乘りの慣習で、飛行機に乘る者は、必らず鳥打帽子を反對に後ろに被つて居りますが、之れは決死の意味を現はして居るのです::。

　さて飛行機には乘りましたが、如何爲たら之れが飛行のであるか、全然判りません、暫時躊躇爲ましたが、まゝよ、どうでもなれ、と云ふ氣になりまして、前にハンドルがある、其のハンドルを上に擧げたら、飛行機が上に登るだらう位で之れを力まかせに上に押し擧げました、すると痛快なる哉飛行機は地上を離れて大空高く飛び上つたのです。此時は約四五百メートル位飛びました。

　が、曩に佛蘭西人が、何故私等に飛行機に乘れと云つたか、之れが疑問でありましたが、其れが即ち、滑稽な誤解から起つた事で、こゝの佛人は私等を支那人と見誤まつたのです、そして去日支那の巡遣委員とやらが、巴里で飛行機に試乘して顏色を蒼青くして大變に戰慄つたと云ふ事を聞いて、私等を飛行機に乘せてその戰慄狀態を見たいと思つたのであつたのです。翌朝の新聞紙には、昨日某地に於て支那の陸軍士官が飛行機に乘つたと麗々と掲載てありました。

▲何の爲めに飛行機が製されたか

自働車も佛蘭西人が發明したのです。飛行機も始めて佛蘭西で飛びました。從來歐米諸國の飛行機熱は非常の速度を以て進みまして、現今ではこの流行が何所まで及ぶやら不明有樣でありますが、ここに可笑しいのは、飛行機の目的です、何の爲めに飛行機を製つたか、何に使ふつもりで飛行機を製るかと云ひますと、之れは誰も知らぬのです、誰もが滿足な說明を與へませんのです。

　或人は自働車に代る爲め、と云ひますが、今日歐米に於きましても、自働車の數は餘程馬車の數よりも尠く、自働車の將來は未だ大に發展すべき餘地があるのです、それに飛行機は往來の中央でも屋根の上でもかまはず落ちる、間違へば人の頭の上にでも落ちると云ふ危險があるので、之れは交通機關として、自働車の代用を爲さしめることは、今日の場合では多少の困難があります。

　又或人は、飛行機は揮發油賣込商の廣告だと云ひますが、うがつた話で、少々は味もあり、臭氣もします。

　さらば軍用の爲めかと云ふと、眞個左樣と云ふこともないらしい。要するに流行と云ふ一種の力に乘せられて居るのであつて、止まらぬ一個の遊戲。一個のボートレースである。歐米人は全然盲目のやうになつて此の力に乘らうとして居るそして此の力に巧に乘じた人は、非常な名譽と賞賛とを受けて居るのです。

（つゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

風馬牛（六）

園　鯛

小學校の敎員光本晨次は私立尋常高等併置の兼校長で、而も全國の模範校と稱へられて居る學校の事務と、部下四十餘名の男女敎員と、附屬幼稚園の媬母、圖書館員との監督をするのが任務である。けれども「一般の敎育が、制度中毒れの形式ばかりで、實用上の效果も少なく、特に品性人格の陶冶は消極に陷つて、世智辛い社會に活動しつゝ、健全な思想を以て正しく人道を履踐で行く者も少ない。」と常に憤慨して、一人前以上の仕事があつて忙しいにも拘はらず、修身と主要な國語や英語算術のやうな學科を受持ち、又裁縫や食住科の初歩なども、女敎員の中に交つて補足するので、朝は六時から出て、夕は七時過ぎに歸るから、自宅に居る時間は只夜中ばかりで、其れも夕食を了へば一室に籠つて、頻りに何か自修して居る。併し、日曜日には半日餘りつゝ、乾度中央圖書館に姿を見ぬ時は無い。又彼れは非常に孝心の厚い性質で、五十歳餘りの母親を唯一の尊長として、專ら其の養心に力めて居るが、大祭祝日に限つて、必ず何所かへ伴れて共に樂しう其の日を遊び暮すことにして居る彼れはまだ三十歳にならぬ壯年であるから、今十年程は何か研究の爲めに獨身を希望して、母親にも常套語の樣に、「人間は一生研究を止める事が出來ぬけれども別して三四十までは馬車馬のやうに傍目も振るもので無い」と言つて一つの主義にして居つた。

其れ故、母親も追々老つて來るが、先先と忍耐して居るものゝ、親一人子一人の身には、早く孫といふ者も欲しいし、又家の相續者も必要であると思ふから、折々親密い人には「急ぎもせぬが、相當な嫁が在つたら」と賴んで居た。

光本の舊友で、長谷と云ふ當時賣り出しの敎育事務官がある。光本が今特志で小學敎育に從事て居るけれども、彼れは決して池中の者で無いと信じ、衷心から敬服して、常に何等かの關係を附けて置かうと考へ中、丁度自分の妻の學友であつた某大臣の妾腹の女がある。此の女は却々のハイカラだけれども、大臣は財產の多い實業家にも似合はず、變物であるから、末の見込さへあらば却つて中層以下の獨立者に嫁りたいと言つて居るのを奇貨に、光本の母親に相談して見ると大喜びで「晨次へも咄して貰ひたい」と云ふ。ソコデ、早速光本に勸めて、且つ「先方は權門の上に富豪であるから、君の發展に資することが多くて、所謂虎に翼を附けたやうなものである、」と熱心に媒人口を利いたが、光本は甚だ不快げに、「君は未だ眞に僕の知己で無いのを遺憾とする…吾輩は君の有爲から見ると甚だ意氣地の無い男と思ふだらうが、吾輩はまだまだ女房をラッダーにする程までに墮落しないから、ドウカ見直して貰ひたい」と峻拒つたので、友人も大に恥ぢて此の談は中止したが、元來此の男は光本の樣な人格のある人間で無いから、心中には竊かに光本の抱負て居る自信を瘠我慢の廣言だと思つて危ぶんで居た。

其の翌々日の日曜の夕刻に、中城貞代が久しぶりで訪れて、芝山道子の性格を委しう話して光本の意向を聞き、異存が無いなら母親に相談しやうと言ふ。光本も近頃母親の希望が切になつたので、早晚娶ふべき妻であるから、母の爲めに主義を枉げても、自己の目的を妨げる事さへなくば可い、と決心して居る所へ、兼て當世の婦人には殆ど見られまいとまで信じて、敬服して居る貞代の話であり、且つは、平常何事でも內端に言ふ貞代の批評する道子の性格が、全然自己の理想として居る所に一致したから、只「よろしく母と御相談を願ひます」と言つた。貞代は其のまゝ母親の室へ往つて咄すと非常の喜びで、「早速願ひたい」と言ふ。

歐米最新の流行服

其の翌日貞代は和國屋へ往つて、店の直ぐ隣の住居の方で、道子の兩親に談し込んだ。「兎も角も、兩三日中に、何とかお返辭を申し上げませう、」と云ふ事であるから歸つたが、中五日隔てゝ、番頭が主人仁兵衛の代理として中城に來て、「種種御親切に預かりまして厚くお禮を申し上げます。さて、御相談下されました緣談の儀は、兩親緣類とも相談の末、本人を嫁げる事に纏まりました。何れ兩親の中一人、改めて御挨拶に參りますが、一寸此の間のお返辭までに伺ひました」と言ふ事であつた。貞代は、其の返答が餘り形式的で、不承々々なのに滿足は出來なかつたが、前の日に母親が不平らしい口氣もあつたから、或は纏まるまい？とも思つて居たが、意外に兎も角も嫁らうと言うて來たのであるから、其れで埋め合せも付くし、又肝腎の道子さへ不滿で無ければ、更に言分は無いと決心して翌朝早天に光本へ昨日の和國屋の挨拶を傳へて、猶ほ近日の中公然の返答次第、更めて來る由を言ひ置いて歸つて來た。（つゞく）

●總房の山川

（二の上）　千葉　松平淑子

夫れから、矢張、東葛飾郡小金町の本土寺境內の、秋山夫人の墓碑は、源光圀公の撰文で有ると言ふ事を聞いて居りましたから、態々出掛て參りました。

彼所は、小金町と申しましても、其實同町から、西南方六七町距れて、其間、兩側に老松が樹ち並んで、空しく昔時を語つて居る樣な感じがしました。

其突き當りに、莊嚴な山門が有り、其處で夫の鎌倉の名工運慶遺作の仁王に迎へられ院內に入ると、遙行方の丘上に本堂が見え、左方の隴上に鐘樓があり、右手には寺院が一廓をなし、これ等の間を櫻樹が點綴して居りますから、春秋の候は、花や紅葉が一層の觀を添ふる事と想はれます。

先づ住持の上人を訪づれ、來意を告げ案內を需め、其導きに由り、墓前に謁し聊か薄典を捧げ、後徐に其碑文を拜讀致しました。

○秋山夫人碑陰

夫人姓源氏秋山諱都摩號下山甲州人越前守虎康女其先出自
淸和帝七世孫新羅三郎義光義光五世孫光朝號秋山太郎是其始祖也世爲甲州豪族光朝十九世孫信任稱新左衛門有二子長信友稱伯耆守知濃州岩村城次信藤稱平十郎共仕武田信玄累立戰功虎康信藤鄕三子也及武田氏滅仕東照公夫人年甫十六侍公左右天正十一年癸未生萬千代君初武田族穴山玄蕃信君屬公有忠不幸無後公令萬千代君繼其家冒氏武田名信吉十九年辛卯十月六日夫人病卒於其采地下總葛飾郡小金邑葬于郡之本土敎寺葢以秋山氏世信法華宗爲身延山檀越也夫人法名日上號妙眞院其墳上有一松樹土人呼曰日上松武田君嘗封常州水戶卒無嗣公令先考威公食水戶於是威公爲君創淨鑑院以奉香花以故予於夫人不敢自外今見墳墓荒廢不堪感慨乃卜寺中高燥之地擇日改葬以封以樹建石記其履歷

貞亨元年歲次甲子夏五月七日

參議從三位兼行右近衛中將水戶侯
原光圀建

碑面の所々苔が萠え、其廻隈には亂草と云ふ程でも有りませんが、大分草が墳城を鎖し、久しく人の訪ひし形跡も見えませんので、自然と追懷の淚に旅袖を沾し、去らんとして猶低徊去ることが出來ませんでした。

であります、今の住職も近頃都方より轉職し來り衰廢に屬しつゝある狀を憂ひ、改善に努め、又土地の有志家も斯る由緖ある寺院をして再び世に知らしめと努めつゝあるは、有緣の我々にとりては勿論、國粹保存と云ふ上にも誠に悅ばしいことゝ存じます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

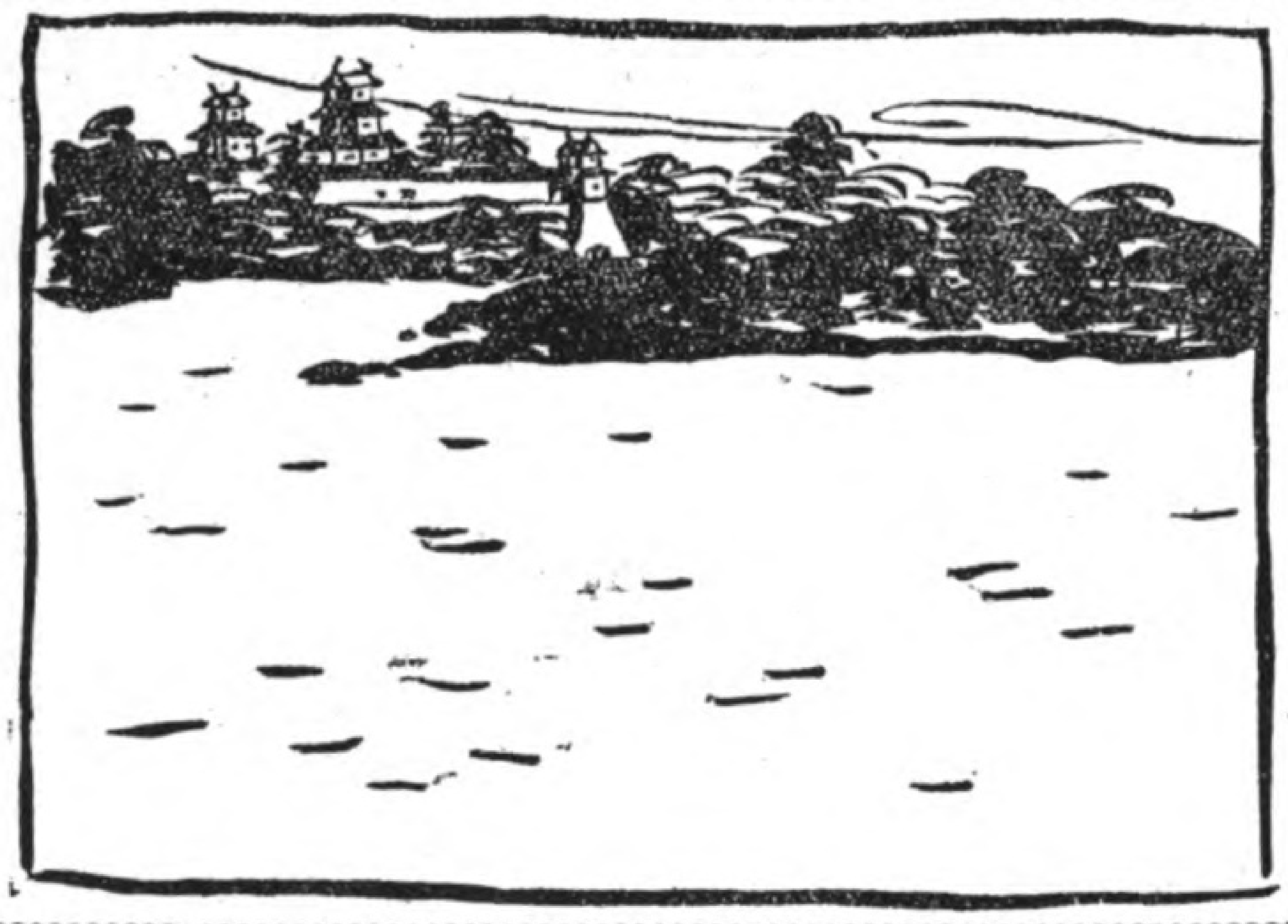
講談 宇都宮孝子傳（一）

大島光利口演

新年の初刷は義士傳の續きも面白からずあらゆる新聞雜誌に載て居ります故、表題の如く宇都宮孝子傳と云ふのを御覧に供へます、抑も貴賤上下の別なく、人は總て感化力の強きもの、然るに前回にも貴覽に供へましたが、古歌に

白露のおのが姿を其まゝに　紅葉におけば紅の玉

とある、此の講談の主人公は肥前唐津の城主にて、筑紫市兵衛貞雄と申すもので御座います、抑も肥前の國松浦郡唐津は天下に名高き名城にして、是を三舞鶴城と申す、第一は紅葉山千代田の城、徳川將軍の御居城、是を舞鶴城と申す、第二は甲府宰將の御居城、只今の山梨縣、此の城を舞鶴城と申す、第三番肥前の國唐津は四邊は渺々たる玄海灘、怒濤岩を嚙み、沿岸の松並木は延びて鶴の翼に似たり、離れたる島を鳥島と申す、遠方より見る時は左ながら鶴の頭に似たり、三舞鶴城の内にて最も名に因深きは此の唐津城と爲す、我婦人會の爲に御盡力あらせられる海軍の小笠原長生君の御出身地で御座います、又愛國婦人會を三十三年以來發され、男子も及ばぬ御盡力遊ばされ不幸病を得て、京都大學病院にて先年逝去せられし奥村五百子刀自も此の唐津より出身せられました、偖寛永の昔を觀まするに、唐津の城主は寺澤志摩守十二萬石にて是を領されました、御藩中に筑紫市兵衛貞雄と申す、年三十に近しと雖も妻を迎へず、老たる一人の母に侍づき、類ひ稀なる孝子あり、食祿二百五十石を賜はり、何に不自由なしと雖も獨身である、人媒妁の勞を取らんと申込ば、暫く沈思熟考徐ろに口を開いて 市『難有き仰せなれど拙者は不幸にして、東西判らぬ内父は大阪の戰場に臨み、屍を曝し兄弟ありしが、皆死に絶え只一人の養育によつて血統を繋ぎ居る、子を觀る事親に如ずと云へば、又親の心も朝夕拙者は見聞きして存じて居る、我が母を褒めるにあらねども、女のたしなみ一通りは申すに及ばず、靜流の薙刀等は拙者相手を爲すも却々油斷なり難き早業なり、其上至つて嚴肅の性とて、此の母の心に叶ふべき婦人あらば、何時にても妻に娶り兩人心を揃へて母に仕へんと思へども、是れ容易の事にあらず、今暫く緣談は見合せても拙者は壯年、敢て血統上差支へなし』と云ふては斷はります、然るに寺澤志摩守殿若殿兵庫頭御年廿一歲にならせ玉ひ去る方よりの媒妁にて、島津家の姫君桃園姫と仰せられる御方と御結婚の御相談成りたり、然れども先方は三ヶ國を領せられる御大身、寺澤家は十二萬石の小身見合を以て緣談の可否を決するなぞと云ふべき資格は御座いません、御年十八歲にてお名前は桃園姫樣、唯是だけにて御緣談を整へます、俗に釣合はざるは不緣の基と申す、其頃の習慣として薩摩國は最も武道を勵み、男子を愛し婦人を忌むは皆樣も御承知の通り、俗に女を女郎と稱します、演者の舊主人阿部豐後守の家にも、島津家より姫君が參られた事が御座います、七十有餘萬石の國守より僅か奥州白河十萬石の阿部家に嫁せ玉ふ、箇樣な例は他家と雖ども澤山御座います、左れど御婚禮の當日には儀式を嚴にして島津家より御婚禮係は勿論、其他の者も當家に見えられ、小身大名の悲しさには儀式を知らぬなぞと嘲弄られてはならぬ夫々諸事に行き渡りよきものをお選みになる、始めて此の時に筑紫市兵衛を適當の人なりとして、結婚係を命ぜられました、寛永の六年九月の廿四日舞鶴城に於て、御婚禮の式を擧げさせ玉ふ、早朝より市兵衛は嗽手水に身を淨め、少しも落度なき樣心に念じ、母の前に叮嚀に兩手を支へ出仕爲す事を告げ、若黨下郎を引連れて舞鶴城に罷出ました、城内は左ながら和氣靄々として匹夫下賤に至るまで滿面喜びの色を湛へ、其他の役人衆は劇しき中にも喜びの色面に充ち、殘る隅なく出仕いたす、此時に島津家より御附の方々並に婚禮係宍戸右源太と申す重役を始め、一同着席いたす、整へ置きたる御料理は山海の珍味心を籠めたる調理、總て芽出度物をかたどる、當日係りの筑紫市兵衛は麻上下着用、夫へ罷出で人々に酒を勸める、抑も酒は禮に始まつて亂に終る、理なるかな少し飲む酒は松にも地の藥と申す狂句が御座います、一杯人酒を飲み、二杯酒を飲み、三杯酒人を飲むとやら、献酬再度に及びたる夜の五ツ頃ほひ、鹿兒島より來られし宍戸右源太と云ふ者至つて酒癖惡き性、飲ば飲むだけ顏色蒼白、兩眼鋭く座中をヂロリ睨まはし。何か不平らしき容子にて市兵衛に對ひ 右『是は〳〵今日は御苦勞に存ずるお手前は何と申す姓名を承知致したい、問はれて市兵衛頭を下げ 市『筑紫市兵衛と申す小身者に御座います 右『左樣か、此度は我主家より桃園姫樣御緣組に就て御見送り旁御當家へ推參いたした、定めし手を盡された御叮嚀の御馳走もあらんと思ひ居つたに、總て不味ひ鹿兒島武士の口に合ぬ、餘り粗末では御座らぬか、エーイ、云ふ言葉の下より最早十分に飲食いたしましたから、胸よりせりあげる御料理を再び奥齒で嚙下す樣子あい、市兵衛偖はと心付き、酒が云はせる戲言なれば敢て心に止めず 市『ハ、御尤もの仰せに御座いまするが、島津家は御大身寺澤は小祿に御座います、昔からの例へにも富貴の萬燈貧者の一燈と申す、身分相當には念を入れ、心を籠めましたる料理御口には合ますまいが御芽出度今日枉げて召上り下さる樣。』（つゞく）



◉御断り

本紙和歌選者坂正臣先生御母堂逝去の爲め、和歌「月前早梅」は本號に於て發表致し兼れますから讀者諸姉に左樣御了承を願ひます。

勅語奉釋及爭歌評釋號休揚

▲愛國文苑▼

⊙和歌　坂正臣先生選
野若草（二月十日締切）　春雨夜靜（二月廿五日締切）

⊙和歌　佐佐木信綱先生選
鶯告春（一月十日締切）　春月（一月廿五日締切）

⊙俳句　内藤鳴雪先生選
冬期雜咏（五日、廿日の兩度締切）

●入選者には左記の賞品を呈上致します
天○賞品、宮内省御歌所御校、兩陛下の御製を收めたる（日月帖）一部
地　賞品、繪葉書ブック一冊（俳句天賞は寫眞ブック一冊）
人　賞品、繪葉書ブック一冊

▲愛國文苑▼

ちゞれ毛くせ毛
毛はへうけあい
二大奇方劑

本法は
女髪結師安部歌子
女史の多年實地研究したる秘法是迄一大奇法なり照會者は往復はがきにて申込あれ
東京麹町區三番町六七　小林濟世園

◎新案流行の腹卷
○胡蝶腹卷は實に左の特長あり
第一　冬は寒さしらず夏は寢冷しらず四期兼用の重寶なり
第二　猿股兼用にして而も猿股の如く不便なく股部牡丹止めなれば伸縮自在にして着用の儘兩便共用達自由なるが故に婦人子供等には無比の要品なり
第三　總てネル裏なる故に肌當り和らかにして快よく腹腰を温め疝氣寸白其他婦人病一切を未發に防ぐを以て上下男女の別なく衛生上缺べからざる要品なり

價格　甲斐絹表上製壹枚金壹圓五十錢　モスリン表上製壹枚金九十八錢　メリヤス上製壹枚金九十錢　イタリヤネル表上製壹枚金七十錢
右の外綿入各二十錢增し
小包郵送料　市内四錢　地方八錢
婦人藥 神功湯 本舖　東京市神田區柳原河岸通り　山田天賜堂　胡蝶腹卷販賣部
電話浪花三三五二番　振替貯金口座一〇五八一番

嫁入道具
京都夷川堺町
宮崎タンス
電一八二〇番

女子習字　通信教授（規則書郵券二錢）
●肉筆の手本により丁寧に親切に個人教授を爲す
東京牛込區市ヶ谷富久町八九　小山旭霞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

童話

大黑天の鼻孔

廣島縣安藝國の某郡に青目寺と云ふお寺がありますが、そこには弘法大師の御作と云はれる、古い〳〵大黑天がありまして、此の大黑天に付て言傳へられた一つの御話が御座います。

大黑天は五歳か六歳位の小兒を坐らせたよりも少々小さい位でありますが、之れは弘法大師様が其お寺を御建てになつた時に、御寺が永くつゞくやうにと云ふ御考へで、兼ねて御得意の大黑天の木像を御彫りになり、その鼻の孔から、絶えずぽろり〳〵と米粒が出るやうにして御置きになりましたので、昔は彼の御寺は、今少し山奥にあつて、七堂伽藍の大寺でありましたが、和尚様の召しあがるだけは、代々此の大黑天の鼻から出るお米で澤山でありました。

ところが、世がだん〳〵末になり、和尚様も昔の様に偉い方ばかりでなく、慾の深い方がすわりまして、何んでも、之れではお米があまり少い、せめては小僧一人の分なりとも餘計出ればよい、見れば大黑天の鼻の孔が小さい、今少し太くしたら、屹度澤山出るに違ひない、と思つて、燒け火箸を其鼻の孔に通しまして、やれ〳〵大分太くなつて之れでモウ大丈夫だ、とにこ〳〵顏で獨り樂んで其晩は寢ましたが、神や佛も斯様な慾ばり坊主の望をどうして叶へられませう翌日起て見ますると、お米は出て居りませぬ、はて妙だとゆるがして見ても出ませぬ。とう〳〵それッきり一粒も出なくなりました。夫れから御寺は世の亂れると共に衰へまして、さしものお寺も今はかたばかりの、無住の破れ寺となつてしまひました。慾の深い鷹は爪が剝げると申しますが、誠にその通りで、よく〳〵心得ねばならぬ事では御座いませんか。

（日）（誌）

▼十二月十六日(金)晴　宮中に於て皇族會議を開かせらる◎明年度歳出入豫算發表（但し歳出入共約五億四千萬圓）◎代々木練兵場に於けるグラピー式飛行機術浮揚す

▼同　十七日(土)雪　故久我尼公に對し祭粢料御下賜◎淺草歳の市

▼同　十八日(日)晴　三皇孫殿下皇太子殿下に共に埼玉縣下大袋にて鴨獵遊ばさる◎强風の爲飛行機飛行中止

▼同　十九日(月)晴　露國皇帝御命名祝日◎久我尼公御葬儀◎ファルトン式飛行機大に成功す

▼同　二十日(火)晴　皇太子殿下歳末御晩餐會◎閑院宮同妃殿下沖繩へ御發◎第二十七議會成立す

▼同　二十一日(水)　故向山海軍中將に對し祭粢料を賜はる

▼同　二十二日(木)晴　三皇孫殿下熱海御避寒

▼同　二十三日(金)晴　第二十七議會開院式を行はせらる(行幸御中止)◎閑院宮殿下御歸京◎久邇宮兩若宮殿下京都御成

▼同　二十四日(土)晴　長き逸より歳末御慰勞の思召を以て各元老大臣へ御下賜金あり◎貴衆兩院共來春一月二十日迄休會を議決す

▼同　二十五日(日)晴　朝香宮鳩彦王、東久邇宮稔彦王兩殿下步兵中尉に、北白川宮成久王砲兵中尉に孰れも御陞進◎クリスマス

▼同　二十六日(月)晴　新年式當日皇后陛下及各宮妃殿下の御裳捧持者華族子弟二十四名に對し習禮のことあり

▼同　二十七日(火)晴　華頂宮博忠王殿下横須賀より御歸京◎伏見宮妃殿下横須賀御成

▼同　二十八日(水)晴　……

▼同　二十九日(木)晴　梨本宮同妃殿下名古屋より御歸京◎幸德以下の辯論終結◎愛國婦人會顧問錦鷄間祗候貴族院議員德久恒範氏薨去

▼同　三十日(金)晴　伏見若宮殿下軍艦朝日へ御歸任◎李王家職制御裁可

▼同　三十一日(土)雪　……

◎橋本救世丸の名譽

近時我陸軍に於て衞生機關の完備せるにも不拘特に本劑を以て演習常備藥として採用せられ忝なくも第一師團長閑院宮殿下を初め奉り近衞師團長上田中將閣下及各將校一同御携帶あらせられたるは偏に本劑の偉効を證明して餘りあるものと云ふべし

胃病良藥　太田胃散

東京日本橋區堺町通ふきや町　電話浪花千二百七十番

嫁入道具　大伴タンス問屋　京都高辻高倉　電三五八。

赤のれん　赤のれん

半えり店は御贈答適當品が澤山取揃て居り升

は流行の品や御似合物をお安く願ひ升　總本店東京神田小川町（電話本局二六五番）です

現代名流婦人

一月十日發行　定價廿五錢　郵稅二錢

婦人畫報増刊

附錄石版刷二頁大　母の留守

讀物

昔の思出……跡見花蹊
我身の教訓……三輪田眞佐子
我が經歷……棚橋絢子
泣酒十年……矢島楫子
身後の名……下田歌子
忍耐と實學……山脇房子
働け主義……嘉悦孝子
音樂と家庭……幸田延子
◎私の半生……跡見玉枝
◎師恩：蕉園◎旅……ふじを
◎亡兄の爲に……三宅花圃
◎書く癖……小金井きみ
◎若い時……櫻井ちか子
◎書物武田きん◎衛令……子
◎精神教育……宮川すみ
◎父の急死……佐方鎭子

畫報

九條公大谷伯二夫人
毛利公母堂鍋島侯夫人
二條公岩倉公二夫人
德川小笠原二伯爵夫人
前田松平阿部三夫人
戸田寺島岡部三夫人
伊達池田鍋島嗣子夫人
德川四條二侯爵夫人
大隈伯澁澤男夫人
後藤男金子子夫人
松方侯嗣子德川夫人
千家目賀田男夫人
三井佐藤二男爵夫人
樺山長谷川二大將夫人
鳩山新渡戸二博士夫人
濱尾男尾崎二夫人
▼跡見三輪田下田女史
▼棚橋山脇矢島嘉悦女史
▼跡見玉枝奥原晴翠女史
▼小蘋女史と小鷹女史
▼幸田延子柴田環二女史
▼安藤幸神戸絢二女史
▼蕉園女史とふじを女史
▼井口女史と宮川女史
▼賴母木女史と橋女史
▼花圃女史と令子女史
▼鷲山井上二女醫
▼佐方武田櫻井松岡女史
▼萩原竹子山階明子女史
▼山室小井出北川女史
▼野口小松崎町田女史
▼ヵ田喜多都浴武田女史

讀物

獨逸の三年……安藤幸子
神戸女史と橋女史……
小蘋女史と柴田環女史……
苦い經驗……賴母木駒子
數授も修業……山室千代
琴の五年……町田杉勢
數のまゝ……丸山島能
上京の素志……小井出とい
私と南畫……奥原晴翠
◎嬉し悲し……井口あぐり
◎醫術……鷲山彌生井上友子
◎看護二十年……萩原竹子
◎感化事業……野口喜多川二女史
◎謠曲……山階明子
◎圍碁……多喜都築二女史
◎面白き氣分……松岡止波
◎道場設立……小松崎こと子
◎私の武道……野口うた子

東京社　東京飯田町四ノ四　振替一一八一八　番町二三三九

◎愛讀者諸君へ謹告

▲新聞の代金　をお送りになる時は、振替貯金が一番安全確實で、紛失や未着の恐れもなく、其の上郵便賃もいりませんから、御便利でございます。

但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

▲振替で御送金　の御方には當所から殊更らに受領證を差上ませんから振替貯金拂込受領證を後日の御參考に御保存願ます。

▲郵便切手　で御註文又は御送金の節は必らず一割増にして願上ます。

▲愛國婦人發行所　の振替口座番號は毎號新聞に掲載してありますが、東京一一三八一番でございます。

▲お手紙の御住所御姓名は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認めを願ます。

愛國婦人發行所

醫院案内

日本橋區

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六七九番）
診察時間 自午前九時至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 佐久間兼信
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

日本橋區濱町三丁目七番地 電話浪花一六〇番
濱町 産科婦人科 病院
院長醫學士 小林八十七
醫學士 大瀬貴明
醫學得業士 杉原格藏

●**産室増築落成**
日本橋區濱町貳丁目十一番地
産科婦人科稻生醫院
電話浪花三三四三番

芝區

◎**産科婦人科、**
芝明船町十九虎門外
電話芝二六四二番
櫻井克巳

●**産科**
●**婦人科**
（午前宅診 午後往診 入院隨時）
芝白金志田町五七番 魚籃坂下（電芝五壹貳）
野口醫院

本郷區

…（診察時間）…
○**産科、婦人科** 入院應需
月、水、金午前 橋爪病院（浪花二六〇番）（日本橋區蠣島町一の廿九）
毎日二時ヨリ五時迄 自宅（下谷二四八七）
本郷區眞砂町十五番地
醫學士 橋爪哲造

淺草區

内田病院
淺草區新福井町二（瓦町電車停留場際）
病院落成に付隨時入院の需めに應ず
小兒科專門
院長醫學士 内田愼太郎
（電話下谷七一八）

●**小兒科** 殊に營養障害
淺草下平右衛門町十七
内山小兒科醫院（電下二參六五）
院長ドクトルメヂチーネ 内山好十

下谷區

産科婦人科 天本醫院
下谷區仲徒町二丁目卅五番地
院長（入院隨意） 醫學士 天本治（電話下谷二六六九）

牛込區

産科婦人科 小兒科
牛込區納戸町三六
電話番町一〇四〇番
野中醫院

赤坂區

腦神經精神病
院長 ドクトル 齋藤紀一
醫學士 田澤秀四郎
醫學士 望月温象
電特芝二七四五
芝二六六五
東京赤坂 青山病院
帝國腦病院

産科婦人科 午前宅診 午後往診
東京市赤坂一ツ木町七十二番地 本所江東病院
醫學士 河島右一
（電話新橋四一七八番）

麹町區

内科診察 宅診午前及夜間九時迄 往診午後
麹町區四番町四番地（電話番町貳三八四）
醫學士 中山敏樹

婦人科産科 榊病院
醫學博士 榊順次郎
醫學士 久保德太郎
醫學士 田代謹二
毎日午前診察
日曜水曜午後婦人科的外科
火木土曜日午泌尿器病及内科
●施療火木土午後自一時至二時
●施療姙婦產婦ヲ取扱フ
麹町區三番町三三（電話番町三九五）

産科婦人科小兒科 **女醫 鷲山彌生**
診察時間 院長 毎日午前八時より
醫員 毎日午後三時より
内科部長 **醫學士 武智基造**
診察時間 火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院 電話番町二二五七

神田區

産科婦人科一般
神田區佐久間町二丁目十七番地
松岡醫院
電話下谷三七五六番

内科一般 午前宅診 午後往診
東京神田區美土代町三丁目十七番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

耳鼻咽喉科
神田區美土代町一丁目十六番地
醫學士 榊田義衛
電話本局三一九〇

京橋區

◉院長ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇）
婦人科産科木村病院

小石川區

◎**産科。婦人科**
◎**内科。小兒科**
小石川西江戸川二六
電話番町（一四二六）
森種太郎

府下

腦神經精神病科
東京龜戸町電話浪花二五五二
加命堂腦病院

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂
持阿彌

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 **十五銀行**
電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 **日本橋支店**
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇五番
一定期預金 六ヶ月以上年四分
一特當座預金 日歩五厘
一別當座預金 同 八厘

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 **森村銀行**
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月 年四分五厘
當座預金 百圓に付日歩 五厘
特別當座預金 同日歩 九厘

リウマチス 特効藥 掃雲丸
本劑はドクトル篠崎先生が常に本患者に用ひて卓絶なる奏効を認識せられたる靈劑にして其偉大の効力は實に神助に出るが如く如何なる悪性のものと雖も根治す壹週六拾錢貳週壹圓拾錢參週壹圓六拾錢郵券貳錢送付あれば詳細說明書一冊進呈
東京市神田區宮本町十四番地
宵山堂
全國送料金八錢を要す
振替貯金東京八九六六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
東京橋區宗十郎町一七 正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱
京橋區南紺屋町一 星社
神戸市元居留地仲町三八東洋廣告取次會社
京橋區廣告社

此たびめりんす專賣店を向ふ前へ開店仕り一層新柄撰み大勉強致し升
東京人形町通り
赤のれん
おばなや本店
電浪四三四五番
向ふ前
おばなや同店

一眞美一

女優川上貞奴孃が十數年來絕えず「シモンクレーム」と石鹼をのみ併用しあるは本品が、皮膚を極めて艶麗にきめを細く色を白くし艶を出し化粧品として尤も卓越せるが故也
三越呉服店を始め各地小間物店にあり
Crème Simon
一眞美一

●東洋一製造大販賣 卸し 小賣
◉夜具蒲團類 綿ざぶとん
外濠線駿河臺下停留場前
神田表神保町二
矢田本店
電話本局二〇一八番
市内無賃配達
諸官省御用
や
●階上縱覽御隨意 珍柄高等品澤山有り
●綿質保險附●確實大勉强●正札引なし

赤十字院長橋本子爵
宮内省侍醫岩佐男爵
記念新藥
日本赤十字社總裁
橋本救世丸岩佐壯婦丸は今回辱くも第一師團長閑院宮殿下並に愛國婦人會總裁閑院宮妃殿下の御嘉納を蒙り殊に日本赤十字愛國婦人兩發行所より各府縣支部長殿(府知事令夫人)同主事事務官殿に藥劑の見本並に該趣旨書を送致し遺族、癈兵、授產場に於て之が取次を依囑し戰死者遺族、癈兵、赤十字社々員、愛國婦人會員、官私諸學校、町村役場員等の便宜を圖らるゝ光榮を得候に付此段御披露に及び候也

故陸軍々醫總監醫學博士橋本先生處方
胃腸肺病 原因療法
救世丸
强力なる消化、殺菌、防腐、滋養の作用を具備し胃腸を健全ならしめ諸傳染病を豫防するに卓効あり

宮内省侍醫岩佐病院主岩佐先生處方
婦人諸病 原因療法
壯婦丸
ヒステリー、子宮病、產前、產後血の道一切又めまい、頭痛、不眠、便秘、神經衰弱等には男女共に偉効あり

海軍藥劑大監水野先生監製 (效能書贈呈)
販賣取次は本舗又は特約店へ申込まるべし●全國藥店に在り
藥價 試用瓶參拾錢 小七拾錢 中壹圓參拾錢 大壹圓八拾錢
藥價は爲替又は振替貯金にて御送金ありたし
東京深川公園 本舗 合資會社福井堂 電話浪花五六六九 振替東京二三六六

●軍人遺族癈兵及び愛國婦人會員に限り定價一割引、且つ送料不要
●在鄉軍人及び遺族癈兵にて販賣希望の有志者は特に割引可致に付郵劵參錢相添へ申込ありたし
●右軍人遺族癈兵又は愛國婦人會員愛國婦人愛購の諸姉にして御希望の方は該發行所へ御掛合被下度候
福井堂

●頭髮の薄き、惡しき、拔毛に苦しむ
●毛髮洗滌液 ペトロール、ハーン

は目下歐米到る處に高評嘖々たるものにして毛髮を濃厚にし、フケ拔毛を止め、光澤を增し且つ柔軟ならしむ、而かも馥郁たる香氣あり使用後永く快感を覺えしむ眞に神妙なる逸物なり
(各地有名なる化粧品店にあり)
代價 小瓶一圓廿五錢 大瓶二圓
橫濱市山下町七十番 エー、ハイム商會

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「アイボリー」石鹼と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ御購求の節「アイボリー石鹼」に御注意を乞ふ

囊きに村井弦齋先生の賞讚を博し今又宮内省御買上の光榮を得たる

東京人形町通 三宅堂本舗
長電浪花六二〇番
振替口座東京八七五番
衛生に注意の男女方は彼れ是れ迷はずにみやけ油を御用ひなさい模造品四方にあれば長髮美人商標と東京人形町みやけ油本舗製に御注意信用ある店に販賣す

皮膚諸病 婦人病ヒステリー症たむしにきび等
梅りんどくわきが生ぢ 諸病
毎日午前八時より午後九時迄院長診察
東京淺草橋通瓦町廿八 瓦町停留場横
中央醫院
皮膚諸病 梅りんどくわきが ぢ 諸病 消渴病
生殖器病 血の道 子宮病 月やくとまりたる病 婦人諸病 なき病
神經衰弱 記憶力減衰 陰萎夢精遺精早漏陰莖發育不充分
病狀を記し郵劵六錢を送れば其病を速治する專門醫中央醫院々長處方の特効新藥說明書を送る
東京淺草瓦町廿八 瓦町電車停留場横
中央藥院

有も美容たらんと欲する諸姉は先ず
レーラーロラ
Lait-Larola
を愛用せざるべからず
此化粧用美容劑は冱寒、寒風、硬水に堪ゆる様皮膚を保ち凍症、ヒビ、アレ、アカラ顔等を防ぐに尤も妙にして且つ皮膚を柔く滑に色白く若やかにす四季を通じて皮膚を細かに完美にす
M. BEETHAM AND SON,
CHELTGNHAM, ENGLAND.
製造所 セルアンハム、エム、ビーサムエンド、サン商會
各地著名の化粧品店にて賣捌く

明治四十四年一月壹日發行(每月二回一日、十五日)(定價金三錢五厘一ヶ月金七錢郵稅不要)廣告料一行金六拾錢
編輯兼發行兼印刷人 山澤俊夫 竹內貞三
發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人會發行所 ●電話番町千七百四十五番 ●同五百二十番
印刷所 東京市小石川區久堅町 博文館印刷所 ●振替貯金口座東京壹壹三八一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

本部記事

▲新年互禮會　既報の如く去る十一日午後一時より九段偕行社に於て新年禮會開催、本部職員並東京支部職員多數集會され、劍舞（小石川區大門町劍舞教士藤田正春寄附少年劍舞）講談、福引等の餘興あり、非常の盛會なりき。

▲顧問薨去　本會顧問錦雞間祗候貴族院議員正三位勳二等德久恒範氏舊臘二十九日薨去せられたるに付き本會よりは左記の弔詞及生花一對を贈呈し、事務總長及第一部長會葬されたり。

顧問正三位勳二等德久恒範閣下薨去せらる坻子等深く追悼して措く能はざる所なり、茲に總裁殿下の台聞に達し謹で弔詞を呈す

明治四十四年一月四日

愛國婦人會長子爵夫人　岡部坻子

▲有功章其他贈與

金七圓　岩手支部西磐井郡幹事部　安齋兵四郎
同　同　遠藤ゑい子
同　同　坂本謙次郎
同　同　及川もと子
同　同　千葉壽三郎
同　西　穗積小一郎

右頭書の金額寄附により謝狀贈與
岩手支部　西磐井郡幹事部　本間もと子
同　平田うめ子
同　清野右長子

功勞に依り特別謝狀並扇子一本贈與
岩手支部　西磐井郡幹事部幹事　新沼たけ子
同　千葉もと子
同　貝沼たき子
同　莊子そよ子
同　高橋しげ子
同　千葉みちよ子
同　小野寺よしき子
同　千葉とき子

功績に依り第一種謝狀贈與
岩手支部　西磐井郡　山口菊江子
同　高橋とめ子
同　佐藤千代の子
同　渡邊とよゑ子
同　槻山さよ子
同　加瀨谷やす子

功勞に依り第一種謝狀贈與
岩手支部　西磐井郡　關亭次郎

功勞に依り第一種謝狀贈與　熱海懿
（以上十二月十七日）

靜岡支部

▲三島町會員總會　當支部田方郡幹事部三島町會員總會は客歲十一月卅日同郡戰捷記念館に於て擧行し役員及會員六十餘名參列し戰病死者遺族及有志者を招待して午後一時川合委員先づ開會の辭を述べ會務及會計の報告をなし引續き會務擴張に伴ひ家庭經濟に關する懇談あり更らに午後二時より講話會を開き本縣立靜岡高等女學校教諭塚本濱子氏は和宮殿下御降嫁の事並に尊王攘夷の說天下に囂然たるの秋に方り公武の間動もすれば隔離せんとしければ宮殿下には大に之れを御憂慮遊ばされ只管融和を圖り給ひ遂に維新の大業を扶援せられ給ひたる御苦衷は眞に婦女の龜鑑たるべきものなりなど懇切に說示せられたるを以て一同敬虔の念を深くし滿地寂として無量の感にうたれ歔欷の聲を漏らすものありき。式後餘興として家庭教育に趣味深き福引數百番ありて和氣靄々の裡に解散したるは夕陽富嶽の頂に消えなんとする時なりき。

因に、本日の總會に於ける叙上の講話は婦德の啓發上極めて適切有益なるものにして自ら愛國の念を惹起さしめ延ては本會々務の擴張上益する所鮮少ならざるべきを確信す。

富山支部

▲軍人遺族癈兵慰藉活動寫眞會　其後引續き左の如く開催せり。

月日	場所	來會者數
十一月廿二日	東礪波郡庄下村小學校	七百名
同　廿三日	同　井波町八乙女座	六百名
同　廿四日	同　高瀨村了泉寺	四百名
同　廿五日	同　井口村小學校	七百名
同　廿六日	同　城端町朝日座	五百名
同　廿八日	同　大鋸屋村小谷川善藏方	二百名
同　廿九日	同　山田村小學校	千名
十二月一日	同　雄神村小學校	六百名
同　四日	同　般若村淨念寺	四百名
同　五日	同　福野町惠比壽屋	五百名

函館支部

▲遺族癈兵慰問　昨年十年中當支部長には職員若干員同伴部內の遺族癈兵を慰問し視察し生計不如意と認むるものに對し一戶に付金一圓五十錢宛（反物代として）均一に之を贈與せり此戶數二十三戶なり。

沖繩支部

▲第三回會員總會　本會總裁閑院宮妃殿下の御台臨を忝ふしたる沖繩支部第三回會員總會は既報の如く客臘十二月十七日那覇港奧武山公園に於て開催せられたるが、總會の狀況を記するに先ち少しく殿下の御動靜を謹記し奉らんに、殿下の御乘艦滿洲丸は十二日午前十一時頃波浪を蹴つて勇ましく橫濱港を出帆してより、海上無事三晝夜の航程を經て、十五日午後一時半那覇港に着したるが、是れより先き支部長並に顧問は武石警視其他を隨へ、汽船に引かせたる艀に乘り、遙に沖合に出でゝ奉迎し、殿下には恐れ多くも右の艀に御乘船遊ばされ、新波止場浮棧橋に御上陸あり、こゝより扈從の人々と共に腕車に召されられ、沿道堵を爲せる奉迎者の中を、八重の潮路を越えたまひし御疲勞の御樣子も無く、御機嫌麗はしく縣廳に向はせらる、こゝにて御少憩、支部長及顧問に拜謁仰せ付けられ、やがて御旅館たる縣廳內知事官舍に入らせられたり、此時有位有爵者縣會副議長縣高等官赤十字社支部職員商議員及本會職員等百餘名に拜謁を賜はる。因に殿下御上陸地點には赤十字社、愛國婦人會役員及會員、有位爵者、縣高等官、縣會正副議長、藍綬章佩有者、首里那覇の兩區長助役、縣會議員、其他無數の縣民忝しく奉迎を爲し、埠頭より御旅館に至る沿道の兩側には、中學校、師範學校其他諸學校敎師生徒、並に首里那覇各小學校職員生徒、郡部各學校代表者等約一萬整肅に整列して奉迎を爲したり。

又此夜、那覇區各小學校及那覇商業學校生徒は職員引率の下に提灯行列を催し、御旅館前に至りて、殿下の萬歲を三唱し聊か御旅情を慰め奉れり。

翌十六日は終日御休憩の御豫定なりしも、中頭郡西原村に在る製糖改良事務局に御成りの事定まり、兩殿下には當日午後一時御旅館御出發、二時二十五分無事糖務局に御着、御少憩の後、工場に成らせられ、運轉中の機械に就き山中技師の御說明を聞かせられ、詳しく御目を留めさせ給ひ、次に本縣產の馬匹御覽あり、かくて再び御少憩の上御歸途に着かせられたるが、那覇御歸着ありて直ちに物產陳列場に御成りあり、種々熱心に御通覽遊ばされ、御買上げ品等ありて五時三十分少しも御倦怠の御樣子もなく御歸館あらせられたり。當日も亦、御上陸當時の如く、殿下御成りの沿道には、赤十字社員、愛國婦人會々員、各村各學校生徒、其他多數人民整列して、恭しく奉迎送を爲したり。當日亦小學校生徒の旗行列あり、多數の兒童御旅館前に整列し、殿下の萬歲を唱へ、聊御旅情を慰め奉る。

かくて愈ゝ總會當日たる十七日となる。先づ此日の式順を擧ぐれば、

一、午後一時參列員一同會場に參集、
一、午後二時　總裁殿下會場御着（奏樂）支部長以下幹事部長以上會場入口に奉迎す、
一、支部長の御先導便殿にて御休憩、支部職員名簿及報告書を捧呈す、
一、參列員一同式場指定の場所に整列、總裁殿下式場へ御台臨（支部長先導、一同最敬禮）
一、支部長開會を宣す、
一、總裁殿下御諭旨を賜ふ（一同最敬禮）
一、支部長答辭を上る、
一、支部副長會務並會計を報告す、
一、會長祝詞、
一、支部長有功章御親授の旨を宣す、
一、有功章御親授、
一、支部長遺族癈兵へ特別御下賜金御親授の旨を宣す、
一、遺族癈兵へ特別御下賜金御親授、
一、支部長閉會を宣す、
一、總裁宮殿下御退壇（支部長御先導、奏樂、一同最敬禮）
一、參列員餘興場指定の場所に整列、
一、總裁殿下餘興場御通覽、御會場御退出、
一、奉送は奉迎の次第に同じ、
一、參列員退散、

當日空晴れて寒からず又暑からず、恰も內地に於ける春日の趣あり、會場たる奧武山公園には、神殿樣の淸洒なる式場を設け、內部は總て白布を以て蔽ひ、柱は紅白布にて捲き、幔幕を引き、正面一段高きところに、殿下の御座所あり、少しく前方左右に二個の卓子を置く。其他場內には無數の萬國旗を揭げて裝飾とし、入口には紅白の幕にて假小屋を作り、此處にて當日の記念品たる總裁殿下の御染筆櫻花の圖及風呂敷、菓子其他を會員に配布する等萬端の用意遺憾なく設備されたり。

而して、會員の參會するもの無慮二千五百餘名、實に當地空前の盛況にも拘はらず、靜肅に殿下の御台臨を待ち奉る、やがて、午後二時に至り、御車の徐々と會場に進み來るや、支部長日比松子氏以下幹事部長以上の役員入口にて奉迎し、支部長の御先導にて便殿に御休憩遊ばさる、參列員一同式場指定の場所に整列し、豫定の時刻となり、殿下には同じく支部長の御先導にて式場へ御台臨、一同最敬禮をなし次で支部長開會を宣するや、總裁殿下には、御聲爽やかに左の御諭旨を賜はりたり、一同恐懼して拜聽し奉る。

愛國婦人會沖繩支部は年を逐ふて發展し茲に第三回會員總會を開くに當り諸氏と相見るは最も欣喜の至りなり抑も沖繩縣は內地と其趣の異なるにも拘はらず克く救護の道を講し其効果を見しは諸氏熱誠盡力の至す所なり惟ふに本會の事業は前途尙ほ遼遠益益協心戮力本會の旨意を完うし忠愛の實を擧けむことを望む

一同最敬禮をなす。次に支部長は恭しく左の答辭を奉れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本日茲に愛國婦人會沖繩支部第三回總會を開くに當り畏くも、總裁宮殿下の台臨を辱うし殊に優渥なる御諭旨を賜はりしは當支部無上の光榮にして一同感激に堪へず自今一層赤心以て其の職を守り誓て御諭旨に副ひ奉らんことを期す謹みて奉答す

亞で、支部副長男爵夫人尙眞子會務並會計報告をなす（つゞく）

岩手支部

▲東磐井郡幹事部總會

當支部内東磐井郡幹事部は客歲十一月廿三日を以て第一回會員總會を開けり。同郡は縣の南端にして宮城縣登米、本吉の二郡に界し北上川の東部に僻在す郡内至る處山嶽起伏し交通尤も不便なり會場たる千厩町は郡の首腦地なりと雖も此處に至らんとするには多く峻坂深谿を跋渉せざるべからず只日本鐵道線一の關驛より宮城郡氣仙沼町に通ずる所謂氣仙沼街道と稱する一條の道路あるのみ西磐井郡一の關町より東磐井郡薄衣村に至る四里の間は殆んど北上川の岸上嶮崖に沿ひたる一路にして本年二回の洪水には路面より高きこと三四十尺の浸水あり道路の缺壞崩落甚しく僅かに修繕を加へあるのみ薄衣村より千厩町に至る約三里の道路も亦洪水の慘害を極め數十の橋梁は悉く流失し假橋を以て漸く人馬を通ず一體の地盤深く水氣を含み恰も腐熟したるが如く往來最も困難なり幹事部顧問細川荒雄幹事部長細川つぎ子は菊池事務員と共に開會の前夜支部長一行を一の關町に迎へ當日西磐井郡幹事部顧問澤田專吉鈴木事務員も支部長と同行せり笠井支部長は幼兒二人を携へられ宮地主事を隨へ一行は八臺の人力車に乘り各車夫二人にて殆んど七里の行程或は一歩を誤れば墜落河中に入らんとする處或は泥濘車輪を沒する深さ尺餘に達し澁滯拔くべからず且つ動搖傾斜屢々顚覆せんとする危險を蹈み辛ふじて午前十一時會場に至る會場は千厩尋常高等小學校の校庭にして勉めて華美虛飾を避け正面には總裁宮殿下の御眞影を奉安し其前に式場を設け國旗と婦人會旗を交叉し兩側に慢幕を張り式臺を設く式臺の左方を支部長席とし續て來賓の席を設け右方は幹事部員席として中央を軍人遺族癈兵の席とし會員席は各町村毎に設けて混雜を防ぎ準備整頓間然する所なし當日は近來になき快晴にて空に纎翳なく正午第一鈴にて會員及來賓入場其數五百名以上第一鈴にて笠井支部長、細川幹事部長の先導にて着席、左の順序により式を擧けたり。

●式の順序

第一鈴、入場
一、會員一同參列　二、來賓參列
三、支部長幹事部長の先導にて臨場（奏樂）

第二鈴　式
一、幹事部長開會の辭、
二、總裁宮殿下御眞影開扉（一同敬禮、君ケ代奏樂）
三、卅七八年役當時本會に下されたる令旨捧讀（顧問、奏樂）
四、支部長式辭　五、會長の祝辭（顧問代讀）
六、來賓祝辭及祝電朗讀（奏樂）
七、幹事部長答辭　八、事務の報告並決議（事務員）
九、支部長より遺族癈兵に菓子料贈與惣代之を受く、
十、遺族惣代禮辭　十一、有功章授與、
十二、功績狀授與　十三、御寫眞閉扉（奏樂）
十四、閉會の旨を告ぐ、

第三鈴　退場
一、支部長退席（奏樂）
二、來賓退席（同）
三、會員退席（同）

以上式終り記念の撮影をなし暫時休憩晝餐を配布す場の外園には參觀人數千名來集し古來稀なる盛會なりし餘興として數十の煙火、活動寫眞、手踊等の催あり軍人遺家族及癈兵に慰安を與へ且つ來會者の娛樂に供したり。

當日有功章を贈與せられたるもの及謝狀を送られたるものは、既に本部記事中に記載せられる通り。（つゞく）

北海道支部

▲靜内委員部總會

▲本支部浦河幹事部内靜内委員部第一回總會を去る十一月二十三日靜内村大字下下方村高靜小學校内に於て開會し會員總數六十人の内出席會員四十六人來賓浦河幹事部顧問、浦河支廳屬、戰死者遺族、新に入營すべき壯丁にして盛會なりき。

●愛國婦人會靜内委員部申合規約

第一條　會員は常に本會の主旨を體し相互親睦を圖り同心協力質素勉勵婦德を守り家庭の內圓滿高潔なる品性を保持すると共に外恤兵報國の誠を致されんことを望む。

第二條　前條の目的を達する爲め會員は左の規約を實行するものとす。
一、毎年一回委員部總會を開き相互の親睦を圖ること
二、農閑の時期に於て最寄の會員互に集合し時々談話會を開き智能を啓發し惡風を矯正し婦德を涵養するに努むること
三、勤儉力行衆の模範となるを期すること、
四、會員の募集に努むること、
五、會費は納期を誤らさることに注意し未納者なからしむること、
六、會員中吉凶あるときは互に通報し誠意を以て必らず慶弔すること、
七、軍人遺族並癈兵に對しては時々慰問をなし貧困者には相當補助をなすこと、
八、三大節祝賀には最寄學校に於て拜賀をなすこと、

第三條　本規約は明治四十三年十一月廿二日より實行するものとす、

▲空知幹事部内瀧川委員部總會

當委員部に於ては屢々總會開催の議ありたるも財界の不況農產の不作等其時機にあらざるを以て遂に決行に至らざりしが本年は其比を見ざる豊作にして財界亦頗る景氣を回復せると會務の整理も隨て大に面目を更新したるものあるにより去る十月十七日瀧川第一尋常高等小學校に於て第一回總會を擧行したり。

當日、午前十一時開會、委員大竹康造式辭を朗讀し、幹事村上キミ子、總裁殿下の御眞影開扉、一同起立最敬禮、會員內野シケ子君が代奏樂、次に委員大竹康造戊申詔書捧讀、幹事村上キミ子、總裁殿下御諭旨捧讀、事務員奧井直吉の事務報告あり、夫れより河島支部長遺族癈兵野田幸十郎外十五名に對し慰問品を授與せり。

右了りて河島支部長祝辭朗讀あり、幹事大竹幸子は遺族癈兵に對し更に委員部の慰問品を授與し、次で主事吉田直太郎空知幹事部長稻見里惠子、同顧問稻見貞藏、岩見澤委員部幹事天野せい子、村會議員今井勇吉、郵便局長江藤泰太郎等諸氏の祝辭朗讀、松實道會議員、山崎軍醫正兩氏の祝辭演說、遺族癈兵總代小林久八の謝辭、會員總代內野シケ子の答辭あり、幹事村上キミ子御影を閉扉して閉會を告ぐ。

式後布敎師藤居大威氏の講話あり、午後箏曲、落語、茶番狂言、手品等の餘興を演じ校庭に於て記念の撮影をなし午後五時散會したり。

因に當日來賓の主なるものは河島支部長、佐藤山田兩副長、稻見幹事部長、稻見空知支廳長、吉田主事其他道會議員、警察署長、新聞記者、委員部委員、幹事等六十名、會員の參會するもの百三名、尙遺族癈兵十六名、小學校生徒八十名、今回新に會員となりたるもの特別六人、通常三十二人、合計三十八人なり。

千葉支部

去る十一月二十六日當支部内匝瑳郡福岡町外十三ケ村聯合委員區第二回總會を福岡町尋常高等小學校に於て開會せるに關係町村の職員は勿論會員、贊助員、軍人遺族及癈兵其他來賓等參會せしもの約七百人にして支部よりは告森支部長、里村評議員、林主事、手代木事務員臨席、午後一時左の順序により式を開き、參會の遺族癈兵二十一名に對しては支部長より夫々菓子料を贈與し、近來になき盛會にして午後三時閉會せり。

●式次

一、會員着席　二、支部長着席、
三、來賓着席　四、君ケ代合奏、
五、幹事部長開會の辭　六、同御令旨捧讀、
七、三十七八年戰役の功に依り下賜せられたる銀盃の開盃式
八、聯合委員總代事務報告　九、支部長告辭、
一〇、遺族癈兵に對し支部長より菓子料贈與、
一一、當支部內各部幹事部下に於ける會員數比較及會員其他の心得に關する事項等に就きて里村評議員の講話、
一二、來賓並會員の祝辭、
一三、幹事部長の閉會の辭、
一四、支部長退場、　一五、一同退場、

愛媛支部

▲松山市幹事部總會

客臘十一月二十五日當幹事部第二回總會を松山公會堂に開催す此日來賓として招待狀を發せしもの文武高等官始め九十一人軍人遺族百五十三〇癈兵二十七人會員出席四百三十六人定刻に至り別紙擧式序次に依り夫々豫定の通り執行し式後來會者に折詰饂酒を配分し餘興として喜劇を催し一同胸襟を開き讀笑相和し午後五時閉會せり本日功勞により支部長より木杯を受けたるもの長井ジユウ子外一名這回は久しく打絶えたる總會なれば會員出席非常の多數に上るべき豫定なりしに後藤鐵道院總裁來松の爲め會場差支を生じ爲めに屢々會日を變更するの止むなきに至り豫定の數に達せざりしは甚遺憾とする所なり、然れども本總會が會勢の振興に多少の効果を與へたるは信じて疑はざる所なり。

●擧式序次

一、午後一時入場、　一同敬禮
一、幹事部長擧式の旨を告ぐ、
一、幹事總裁宮殿下尊影開扉
　一同最敬禮、　奏樂（君ケ代）
一、幹事部長令旨捧讀　一同最敬禮
一、幹事部長幹事部職員及會員名簿を支部長に呈す、
一、支部長告辭
一、幹事部長答辭
一、支部長より本會の功勞者へ賞狀贈與
一、幹事本會長の祝電朗讀、
一、支部顧問祝辭
一、來賓祝辭演說
一、會員總代祝辭
一、事務報告（愛媛支部）
一、幹事總裁宮殿下尊影閉扉（一同最敬禮）
一、幹事部長閉會の旨を告ぐ、
一、一同敬禮、終テ懇親會及餘興

▲新居郡の慰問袋募集

明治四十三年二月二十七日幹事會を開き決議に依り幹事部職員發起して第十一師團善通寺部隊に屬する我新居郡出身の軍人にして客年十二月滿洲及臺灣守備として彼地に赴任し嚴寒を冒し幾多の辛苦艱難を意とせず邦家の爲め軍務に從事するもの約三百三十人あり之等諸氏に對し慰問袋を寄贈すべく募集期限を去る三月廿五日と定め慰問袋三百三十箇を募集し（一箇價格二十五錢）四月十日本部兵事會に託し留守第十一師團を經て發送したり。

愛國婦人第二百十七號附錄　發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　竹內貞三　發行所　東京麴町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京市小石川區久堅町　博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN